

No. 19	演題名 「介護離職防止のため 遠距離介護を支える事業」に関する 国診協モデル事業を実施して
	発表者 山内英史 (岐阜県 県北西部地域医療センター 国保白鳥病院) 共同研究者 後藤忠雄 細田絵美香 古代照美 上村寿枝 尾藤陽介 (県北西部地域医療センター 国保白鳥病院)



「介護離職防止のため 遠距離介護を支える事業」 に関する国診協モデル事業を 実施して

県北西部地域医療センター国保白鳥病院
 理学療法士 山内英史 介護支援専門員 上村寿枝
 社会福祉士 尾藤陽介 医師 後藤忠雄
 看護師 細田絵美香 古代照美

2019/11/17 岐阜県国保地域医療学会 1



目的

- 以下を目的とした平成30年度国診協事業(福祉医療機構社会福祉振興助成事業)の一環
 - 「介護が必要になっても親も子も生活する地を離れることなく生活が続けられるヒントを得る」「介護者の不安・負担の軽減を図る」「その具体的な行動の理解ができる」を目的とした遠距離介護支援セミナーをブロック拠点(東海北陸ブロックは県北西部地域医療センター国保白鳥病院)ごとに多職種参加の下で開催する
- 当院と行政との連携の下で開催した『郡上市版遠距離介護支援セミナー』の報告をすること

2019/11/17 岐阜県国保地域医療学会 3



背景

- 郡上市の現状
 - 人口41,593人 高齢者14,862人 高齢化率35.7%
 - 要介護認定者数2,651人
- 親の変化に対応するには親の居住地での対応が必要
 - 遠距離ゆえに対応に苦慮し、子の不安や負担感が増大
- 介護離職を防ぐため介護と仕事の両立を求める働き方改革が推進
 - 遠距離介護は介護離職の原因の一つ
- 介護のために子が親を呼び寄せることによる地域の過疎化進展の懸念
 - 地域の人口減少、空き家の増加などと直結

2019/11/17 岐阜県国保地域医療学会 2

取り組みの背景として、郡上市の現状では高齢化率35.7%であり、離れて暮らす親にいざ介護が必要になった時どうすればよいか?という大きな不安に繋がっているのが現状です。親の変化に対応するには親の居住地での対応が必要であり、今日では介護離職を防ぐため、介護と仕事の両立を求める働き方改革が推進されています。また、逆に介護のために子が親を呼び寄せることが地域の過疎化を進展させるのではないかと懸念されています。また、住み慣れた土地を離れる親の気持ちを考慮しなければならぬと考えます。

この事業の目的は、『介護が必要になっても親も子も生活する地を離れることなく生活が続けられるヒントを得る』『介護者の不安・負担の軽減を図る』『その具体的な行動の理解ができる』ということを目的に、多職種参加の下で遠距離介護支援セミナーを開催する。当院と行政の連携の下で開催した『郡上市版遠距離介護支援セミナー』の報告をします。以上を目的としました。



取り組み



2019/10/5 第59回全国国保地域医療学会 4

取り組みの流れとしてはこのような順序で進めてまいりました。

開催チームの形成

- ・ 当院と行政の協働及び多職種協働のもとで運営

- ・ セミナー企画運営
⇒ 県北西部地域医療センター国保白鳥病院が担当
参加職種： 医師、看護師、社会福祉士、理学療法士、介護支援専門員

- ・ 対象者の抽出・連絡 及び セミナー支援
⇒ 市役所高齢福祉課・包括支援センターが担当
参加職種： 介護支援専門員、社会福祉士、保健師、健康福祉部職員

2019/11/17 延喜良康福祉地域協議会 5

開催チームの形成としましては、当院と行政の協働および他職種協働の下で運営をし、セミナーの企画運営を当院が担当。対象者の抽出・連絡およびセミナーの支援を市役所の高齢福祉課と包括支援センターが担当致しました。参加職種は当院と市役所の各専門職が参加しました。

現状把握

- ・ 当市の遠距離介護の実態把握
 - ケアマネジャー会に依頼し調査
 - 演題20「郡上市における遠距離介護の実態について～ケアマネジャーへの調査より～」参照
- ・ セミナー対象者の把握
 - 要支援認定者および総合事業対象者(平成30年7月段階)で主たる介護者居住地为市外の人
 - 国保白鳥病院外来看護師が必要と考えるケースで独居あるいは高齢者が主たる介護者と思われる子の居住地为市外の人
 - 国保和良診療所が把握している独居あるいは高齢者が主たる介護者と思われる子の居住地为市外の人(住所把握可能者)

2019/11/17 延喜良康福祉地域協議会 6

まず現状の把握として、郡上市のケアマネジャー会に依頼し市内の遠距離介護の実態把握について、調査をして頂きました。セミナー対象者の把握については要支援認定者および総合事業対象者、当院と和良診療所が必要と考えるケースで、介護者居住地为市外の人としました。

セミナーの企画

- ・ 開催日時・場所の決定
- 平成30年11月23日(金)午後 郡上市文化センター
- ・ 開催目的の設定
- 介護が必要になっても親も子も住み慣れた土地を離れることなく生活が続けられるヒントを得てもらう
- ・ 周知
- 対象者へ直接郵送2回
 - ・ 1回目 対象者本人と市外の主介護者に案内を送付
 - ・ 2回目 市外の主介護者に欠確認用返信ハガキ同封で再度案内を送付
- 一部の対象者には、直接手渡しにて案内
- ・ 共通教材のアレンジ、プログラム全体の決定

2019/10/5 第59回全県福祉地域協議会 7

セミナーの企画は、開催日時、場所の決定、目的の設定、周知方法を決めました。周知方法は、対象者へ直接郵送を2回行い、1回目は対象者本人と市外の主介護者に案内を送付、2回目は市外の主介護者に出欠確認用返信ハガキを同封で再度案内を送付しました。

そして、共通教材のアレンジ、プログラム全体の決定を致しました。

セミナーの開催

- ・ 日時 平成30年11月23日午後
- ・ 場所 郡上市文化センター4階
- ・ 参加者 25名
案内は110名に送付
県内外に留まらず海外に住む介護者まで
- ・ 内容 テーマごとに
レクチャー+グループワーク
 - ① 高齢者の身体、心、社会性の変化
 - ② 地域資源・サービスについて
 - ③ 上手にやっていくコツ
 - ④ 希望者個別面談を設定
 事後アンケート

2019/11/17 延喜良康福祉地域協議会 8

実際のセミナーは、平成30年11月23日午後、郡上市文化センター4階で行い、参加者は25名でした。案内は110名に送付し、県内外に留まらず海外に住む介護者まで送付しました。内容は、①～③のテーマごとにレクチャーとグループワークを実施し、最後に希望者に個別面談を設定し、事後アンケートをとり終了となりました。

事後アンケート結果

参加者特性

性別・年齢	割合
男性60歳以上	27%
女性50歳代	14%
女性60歳以上	23%
男性50歳代	32%
男性40歳代	4%
女性40歳代	0%

2019/11/17 延喜良康福祉地域協議会

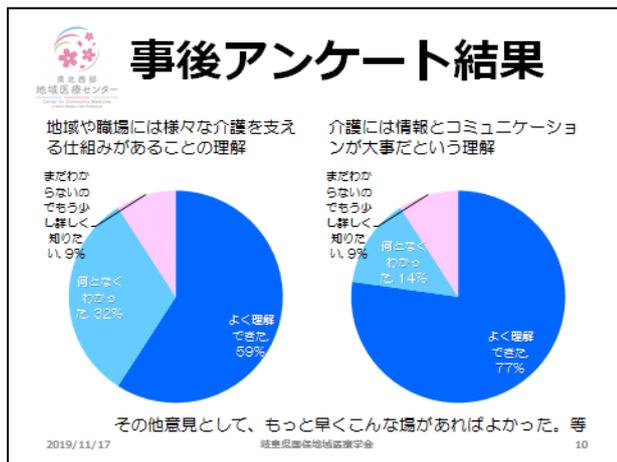
親と療養や介護の意向の話し合い経験

話し合い経験	割合
ある	59%
これから話してみたい	36%
話しする必要はないと帯ている	0%
未回答	5%

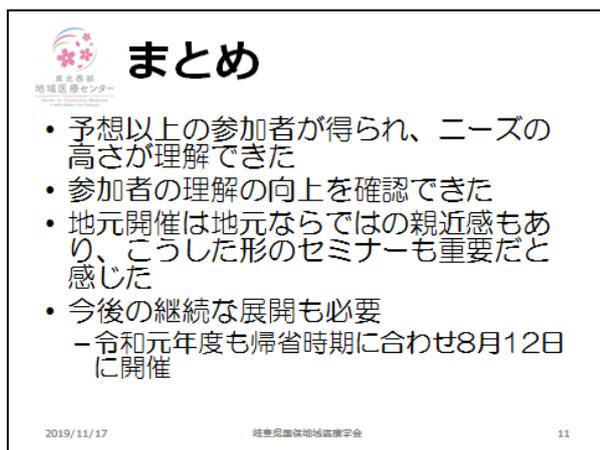
2019/11/17 延喜良康福祉地域協議会

事後アンケート結果より、参加者の特性は男女共50歳代～60歳代以上が大半を占めており、親と療養や

介護の意向の話し合い経験で、あるとの回答が 59%と意識の高さが感じられました。



また、地域や職場にはさまざまな介護を支える仕組みがあることへの理解で、良く理解できた、が 59%、介護には情報とコミュニケーションが大事だという理解で、よく理解できた、が 77%、という結果になりその他の意見としてもっと早くこんな場があれば良かったなどの声も聞かれました。



まとめとしては、予想以上の参加者が得られニーズの高さが理解できました。参加者の理解の向上を確認することができました。地元開催は地元ならではの親近感もありこうした形でのセミナーも重要であると感じました。以上より今後の継続的な展開も必要と考え、本年度も帰省時期に合わせて8月12日に開催しております。